

AJU愛実

第50号 会報

編集: 特定非営利活動法人愛実の会

- ・愛実の会事務所
- ・居宅介護事業所あみ
- ・生活介護事業所障がい者デイセンター愛実
(大地の家／紙風船)

定価:一部100円

福祉の創造 ~受援力を高める~ / 理事長 戸田 真二 P1

居宅介護事業所あみ P2

大地の家 (生活介護) P3~P4

紙風船 (生活介護) P5~P6

「水彩画をしました!」 / 島 しづ子 P7

寄付者名簿 P8



大地の家
秋の散歩外出
(白鳥公園)

紙風船
PARALYM ART
『笑顔』



福祉の創造 ~受援力を高める~

理事長 戸田真二

「受援力」とは、周りの人に「助けて」と発信する力のことです。私もつい最近知った言葉ですが、2011年に起きた東日本大震災において自分たちの地域が今どのような状況なのかを自ら積極的に伝え、助けを求め、支援を受けることが必要とされ、この受援力という表現が広がっていきました。テレビや報道で現地の様子が流れると多くの支援がそこに集まります。しかし、メディアが取り上げないところについては支援金や災害ボランティアが少ないことはあまり知らされていません。阪神淡路大震災～東日本大震災～熊本地震と平成に入ってから震度6を超える巨大地震が3度起きました。そして、共通した出来事として「避難所には障がい者はいなかった」との報告が出されています。何故でしょう？ 障害のある人たちは、周りに迷惑がかかるからと遠慮してしまい、必要な支援を受けられなかつたケースが多く見受けられたそうです。東日本大震災において、障がい者の死亡率は2倍。災害弱者と言われる人たちは、自らの力で避難ができません。取り残されて救える多くの命が失われていたのです。

私たちは日々の暮らしの中で、周りに頼らず、「自分でやらなくては！」と背負いこみ、がまんすることがひとつの美德とされ、人様に迷惑をかけないよう生きることを教えてきました。そして、大災害時、一人暮らしの高齢者や障がい者の多くからは「自分では何もできない」「避難をあきらめている」という本音の声が出されているのです。自らを振り返り、私たちは本当に困った時や苦しい時に「助けてほしい」と声をあげることができるでしょうか。また、「助けて」の声を聴いた時にどこまで隣人として寄り添うことができるでしょうか？

現代社会の盲点は、地域における人付き合いの希薄化だと言われています。このことは災害が起きるたびに顕著に表れ、近助(近所の助け)・互助(助け合い)に大きな影響を与え、地域力が試されます。実際マンションの隣りに誰が住んでいるのかも知らないことはよくある話です。災害時は周りを気にする余裕はなく、みんな自分や家族のことで精一杯になります。困っている人が近くにいても「きっと誰かが助けてくれるだろう」と他人事になってしまふわけです。

周りの人に「助けて」と言える力=受援力は、実はすべての人にとって大切な力であり、特に支援を必要とする人や生きづらさを感じる人たちは、最も備えたい力だと思うのです。受援力を高めていくことは、命をつなぎ、「あきらめ」からみんなで助け合う地域社会、そして生きる希望へつながっていきます。日ごろから身近な人たちとのコミュニケーションを図り、自分の存在を周りの人に知ってもらうことや、がまんをせずいろんな人からの支援を受けることで、苦しい時に自分自身から「助けてほしい」と声をあげができるかもしれません。助けてもらうと本当にホットします。笑顔も涙も出ます。また、日ごろからのそんなやり取りを見る子どもたちに受援力は自然に伝わっていくのではないでしょうか。

東日本大震災では、津波から避難できた要援護者のうち8割が近所の人たちの助けによるものでした。発災時に公的支援は全く期待できないこともわかります。あきらめないでみんなで生きるために、困った時は遠慮なく「助けて」と言える関係を互いに創っていきましょう。

愛実の会ホームページ:情報コーナー(防災お役立ち情報)を発信しています！

居宅介護事業所あみ



齊藤美佐子 サービス提供責任者

雨の日も歩くよ～三種類の雨具

「三種の神器」ならぬ「三種類の雨具」を紹介させてもらいます。外出するときに雨だった場合、皆さんはどうされますか？濡れるの嫌だし中止、寒いから嫌だ…などなど、外出を中止にする理由は様々です。

でも、自宅から徒歩で通所をする利用者さんは、雨でも関係なくサポートが必要となります。

そんな時に活躍するのが、写真にある雨具たち♪

これは私が実際に使っている雨具です。

利用者さんから質問が多い雨具は「携帯用」。

内容は「100均でしょ？」いえいえ、100均に見えますが298円ぐらいです…かなり前に購入したので覚えていませんが、コーオンの雨具売り場で買いました。

セパレートタイプは、情熱価格のド○キ、ポンチョは自転車通学の息子用にネットで購入しましたが「いらない」の一言で、私の雨具グッズに仕方なく参加。

そして…こだわりのレインシューズは、イ○ンで購入！
どーしても長靴にみえるシューズが嫌だったんですね…普通の靴に見えるでしょ♪

小雨、大雨、不安定な天気などなど、移りがちな気象状況の中でも、必要とされるサポートを居宅介護事業所あみは提供させて頂きます。ちなみに、どの雨具も蒸し風呂状態で、サポート終了後は洗髪したかのように汗だくです。どなたか快適な雨具があつたら教えてください♪



携帯用

セパレート

ポンチョ



レインシューズ



この雨具は居宅所有の車イス用ポンチョです



コロナで変わった常識

緊急事態宣言が解除された、10月の晴れた土曜日…近所のスーパーに昼ご飯の弁当を買いに出かけました。コロナが蔓延してから一年以上。あみメンバーの外出事情は厳しいものがありました。感染が心配だし、マスクを着用できないなど理由は色々ありました。最初は嫌がっていたマスクも、コロナ禍の常識として、店内限定期ではありますが、マスクの着用を受け入れてくれました～ありがとう♪



大地の家

7月-10月

室内でも季節の活動を

大地の家は元々季節感を大切に活動をしてきましたが、外出の難しい今だからこそ室内活動でも季節を感じられることの大切さを感じています。

少しでもメンバーに季節を感じ、楽しんでもらおうと、それぞれの担当アシスタントが創意工夫を重ねながら、各行事の企画をしています。

今年の夏は感染対策をしながら、流しそうめんをしました。

また、秋の終わりには数日間にわたって準備をし、ハロウィンの活動を行いました。お面を製作したり、仮装をしたりしました。

仮装をすると、普段の雰囲気とは様子が異なり、メンバーも刺激を受けていたように思います。

その他にも、七夕、暑中見舞い作り、十五夜の活動などを行いました。

もうすぐクリスマスがやってきます。一年の中で一番大きな行事です。担当アシスタントに限らず、大地の家全体としてクリスマスを感じ、楽しめるように取り組んでいきたいと思います。



前号に引き続き、日々元気に活躍中の大地の家のアシスタントの「思い」を紹介いたします！

念願叶って戻ってきました



石田典子 大地の家生活支援員

この4月に約20年ぶりに愛実の会に戻ってきました。

私が退職した2003年は支援費制度(それまでの行政による措置制度から障がい者自らがサービスを選択し、契約によりサービスを利用)が始まる年で、障がい者福祉の大きな転換期でした。

その頃の愛実の会は名古屋市からの補助金で運営されており、新しい制度の中でやっていけるのか皆が不安でいっぱいでした。メンバー、アシスタント、ご家族がデイの時間に集まり『今後の愛実の会について』話し合いを重ねました。

私はメンバーのために自分にできることを考え、資格習得のため一旦はメンバーのそばを離ることとしました。制度が始まつてからの大変さは話で聞くことしかできず、一緒に頑張れないことを申し訳なく感じていました。

その頃に共に20歳代だったメンバーが今は40歳代となっています。

今、愛実の会ではシェアハウスについて話し合われています。メンバーを取り巻く環境が変わっていく中で「これから愛実の会はどうなっていくの？どうなって欲しい？」皆が考えています。

戻ってきた自分にできること…、愛実の会を離れてからしてきた理学療法士としての経験(重症心身障害者の入所施設、療育センター、リハビリクリニック)、資格をメンバーのためにどう役立てられるのか？日々模索の毎日です。再び、愛実の会について皆で一緒に考えていくことを嬉しく思っています。どうぞ宜しくお願ひ致します。

楽しんでいこう

佐藤直樹 大地の家生活支援員

前職を辞めた後、ハローワークで紹介された職業訓練「介護ビジネス科」を受講した。介護とパソコンの資格を得て再就職に備えるというコースだった。だが介護職に就くつもりはなく、雇用保険を受給しつつ三ヶ月間勉強できればと考えていた。だがその途中で愛実の会を紹介された。もしかしたらも人に関わる仕事を続けることができるならと、働き始めて十年目になった。

今になって振り返ると、その時はまともに就職して働く状態ではなかった。前職で斬られた傷口が開いたままだった。第一に人に何を思われているかが気になる。更にその目が怖い。自分の振る舞いの基準をメンバーがどう思うかより、アシスタントにどう思われたいかに置くほど怯えていた。

そんな私を大地の家のメンバーは受け入れてくれた。ここで一緒に過ごすことを楽しめばいいんだよと、メンバー一人ひとりが持つそれぞれの方法でずっとメッセージを送り続けてくれていた。そのことに気づくのに、五年くらいかかったんだろうか。

アシスタントが支援者としてメンバーを支えているという一方的だと思い込んでいた関係が、アシスタントとメンバーと一緒に過ごすことで互いに支え合っているのだと気がつき始めた。関わりへの見方が変わることで、ここでの時間が俄然面白い時間となってきた。

年を重ねるごとに体力的に疲れやすくなってきた。けれども大地の家での楽しい時間をメンバーと一緒に過ごし、作り出していくためにまだまだ務めていきたいと願っている。



↑ 担当したハロウィンの工作活動

日々是気付

福地愛 大地の家生活支援員

私が大地の家のメンバーと関わるようになって、早くも3年の月日が経とうとしています。

私は、元々紙風船で3年間アシスタントをしていました。すぐ側で活動しているとはいえ、大地の家のみなさんとの事を顔や名前くらいしか知りませんでした。

そんな私ですが、この3年の関りの中で、徐々に一人ひとりのことを知ることができました。

手や指先で物の感触を感じることが好きな方、ピアノが好きな方、カフェオレが好きな方、きゅうりが苦手な方等、メンバーは多様な個性を持っています。

大地の家のメンバーは発語ができない方が多くいます。言葉にならない声を上げたり、仕草や表情を微妙に変化させたり、気になるものを指さしてみたり、それぞれのメンバーが様々な表現で私たちアシスタントに色々な思いを発信しています。

しかし、今の私はメンバーの発信を全てキャッチすることが出来ていません。

当たり前ですが、メンバーの体調は日々変化していて、だからこそ“この人は昨日こうだった”というような経験がイコールにならない事が多々あります。

毎日変化していくメンバーの表情、顔色、仕草、声色…。

私はメンバーのことを何パーセント理解できているのだろうか。

もしかしたら、10パーセントにも満たないかもしれないです。

そのことを胸に、固定概念にとらわれないように、自分が



↑ メンバーの活動支援

持っている感覚を日々研ぎ澄ませて、メンバーとの関わりを大切にしたいと思います。



紙風船のページ



新作「王様と大臣」進行状況

新作「王様と大臣」の進行状況をご報告します。当初は今年の夏完成予定でしたが、今回の作品はセリフ・操作方法共に難しく、思いのほか進行が遅れてしまっているのが現状です。でもここで焦ってアシスタント主導の作品になってしまいるのは良くないとみんなで話し合い、早く皆様にお披露目できるようにがんばろうともう一度仕切り直しのつもりで稽古を続けています。この作品では、一人の登場人物を複数のメンバーが演じられるようなキャスティングになっており、セリフ合わせやおばら先生講座ではその時のメンバーのペースに合わせて進めています。公演が再開し皆さまの前で演じる時にも、お互い助け合って舞台を作り上げることができると思います。来年3月の完成を目指しています。

お披露目までもうしばらく温かく見守ってください！



紙風船という居場所

紙風船の新たな取り組みとして、ボッチャや近年注目されるeスポーツをぜひやってみたい人をそれぞれ募り、活動に取り入れていく事にしました。もちろん、公演活動が再開されればそちらが優先となりますが、将来的には大会に出場することも視野に入れながら、10月から少しづつ動き出しています。

【ボッチャ】今年は東京パラリンピックが開催され、障がい者スポーツが注目されました。ボッチャもその一つです。広い活動室を利用してコートを作りボッチャのセットも購入しました。普段体を動かす事が少ないメンバーですが、ボールを投げて楽しく競い合うことでリフレッシュされているようです。紙風船にはなんと競技大会の審判経験もあるメンバーもいて、アシスタントも勉強しています。



【eスポーツ】eスポーツとは、「エレクトリック・スポーツ」の略称で、ビデオゲームを使った対戦をスポーツとしてとらえるものです。大会のために腕を磨き会場で実力を発揮するのは今までのスポーツと同じで、階級別が特にないためハンディを持った人々にもどんどん参加可能です。まだメンバーは自分がやってみたい競技(ゲーム)を探している段階ですが、実際に競技に触れたり見知らぬ人と対戦する事で少しづつ実感が湧いてくると思われます。

まだ始まったばかりの試みです。軌道に乗るまでには時間がかかるかもしれません。しかし少しでもメンバーのやりがいや生きがいにつながればとチャレンジを続けていきます。

パネルシアター



主に月曜日に「パネルシアター」に取り組んでいます。昨年から人形劇の公演活動ができなくなり、何か紙風船だからこそできることはないかと考えて始めた活動です。パネルシアターとは、パネル布(毛羽立ちのよい布)を貼ったボードを舞台に、Pペーパーという不織布で作った絵人形を貼ったり外したりして動かしながら、歌や物語を展開させていくものです。本来はお客様の前で披露するのですが、今の時期、紙風船ではYouTubeチャンネルに投稿し観てもらう方法を探っています。題材決めから作品で使う絵人形などをメンバーと一緒に考え、色付けも行って作り上げています。

今までに「一寸法師」や「3びきのこぶた」といったお話を挑戦しました。そして現在は「ヘンゼルとグレーテル」に取り組み、まずセリフ練習を行い、一つ一つの場面ごとに絵人形の配置や動かし方、またBGMは何にするかといったことをみんなで相談しながら、少しずつ作成しています。

完成したらYouTubeチャンネルに投稿しますので、その際はぜひご覧ください。

紙風船のYouTubeチャンネルには、パネルシアターの他にも、練習の様子や人形を使った寸劇なども投稿しています。投稿している動画はまだ少ないですが、多くの方に紙風船の事を知っていただくと共に少しでも笑顔になっていただけたらと思っています。また、チャンネル登録もしていただけると幸いです。

よろしくお願ひ致します。



サークル紹介①～水曜サークル～



水曜日のサークルの活動内容は、主にお菓子作り・モノづくりです。ホットケーキミックスを使ってケーキやクッキーを作り、午後のティータイムではちょっとカフェを開いてみんなにふるまっています。また、来年のカレンダーを貼り絵で作っており、完成まであと一息です。本当はお出かけ大好きなメンバーばかりですがここ2年ほどはご近所への散歩くらいでガマン…。コロナ禍が明けたら美術館めぐりなどでしょうねと、期待しています。火曜日、金曜日にもサークル活動があります。これから順に紹介していきたいと思います。

日々の取組みやグッズ紹介、販売など
詳しくは



季節に合わせた貼り絵

【公演依頼がありました！】

来る12月21日(火)紙風船にとってほぼ二年ぶりとなる公演の依頼が入りました。本当に久しぶりの公演依頼に、メンバーもアシスタントもワクワクすると同時に身が引き締まる思いです。詳細はホームページなどでお知らせします！

人形劇団紙風船



「水彩画展をしました！」

島 しづ子

みなさま、コロナのために不自由な日々でしたね。まだ続くかもしれません、今だからできることをして力を蓄えましょう。

一年前から沖縄の、特に辺野古や大浦湾の群青の海、深緑の海、光に輝く水面を描き、面白く変化する雲を添えて描いてきました。その絵をフェイスブックにアップしてきました。それに目を留めてくれた、カフェ「Heaven Heaven」のオーナー、リリーさんが「お店で作品展をしない」と声をかけてくれました。お店は辺野古の町にある瀟洒なお店です。キャンプ・シュワブゲート前に座り込みに来た人がランチしたり、一休みできる場所です。リリーさんはそこを辺野古に住んでいる人や旅人が出会う場所を願って開店しました。島野菜カレー、ヨモギ沖縄そば、コーヒースムージーなどどれも美味しいです。

10月半ばから三週間、辺野古の朝、大浦湾、カヌーの活躍などを描いた22作品を展示させてもらいました。『HOPE SPOTに寄せる想い～島しづ子作品展』というタイトルでした。

地球の課題として温暖化対策があります。海洋博士シルヴィア・アール博士が立ち上げた、「ミッション・ブルー」という世界的なプロジェクトがあります。世界で最も重要な海域を「ホープスポット」(希望の海)に設定して保護していくという活動で、世界で約110か所以上がリストアップされています。辺野古・大浦湾一帯は日本で初めて認定された「ホープスポット」です。人類が守らなければ人類自体が危機に見舞われる場所なのです。大浦湾で確認されている生き物は5334種。そこには262種もの絶滅危惧種が含まれています。この海の海草藻場には最近まで天然記念物のジュゴンがやってきました。絶滅危惧種のウミガメが産卵のために上陸します。沖縄島はサンゴ礁の島ですし、昔からたくさんのサンゴが棲んでおり、海の中を覗くと、サンゴが森のように茂り、色とりどりの魚や珍しい生物が生きています。8月末にシュノーケルが出来るようになったので、海の中も時々覗いています。サンゴの森は地上の世界の他に、海の中にも別の世界があることを想像させてくれます。竜宮城の話を身近に感じます。

私は毎週、小さな船に乗り、見学者や記者を乗せ、カヌーのサポートをしています。その合間に周囲の様子を観察しています。感動した景色を水彩画に描き続けています。沖縄タイムスの記者さんが、私の作品と生き方に興味を持ってくれ記事にしてくれました。海の仲間たちも宣伝してくれてお店は大賑わいでした。船を出し続けるのはお金がかかるので、その資金の一助に絵葉書も造りました。友だちが宣伝してくれて絵葉書も好評です。

絵葉書を作り、販売しながら、思い出したのは愛実の会の草創期に「やまだみどりさん」の絵葉書を販売させてもらったことです。行事の度に袋詰めしました。当時は大きな資金源となりました。その節は賛助会員のみなさま、ご協力ありがとうございました。みなさまと今は亡きみどりさんの「愛実の会」に対するご好意に感謝するばかりです。作品展では、辺野古と大浦湾の美しさを知っている方々が、歓声をあげてくれて覗てくれました。嬉しい体験でした。何歳になっても新しいチャレンジができる事を感謝し、楽しんでいます。

みなさまもどうか心元気にお過ごしください。



【NPO愛実の会寄付者名(敬称略・順不同)2021年7月1日～2021年10月31日】

愛実の会の活動、紙風船夢づくりのために多くの方々より寄付金を多数お寄せくださいまして誠にありがとうございます。

皆さまの温かいご支援ご協力に感謝して謹んでご報告申し上げます。



寄付金

榛葉 英子	坂田 昌子	矢澤 綾子	森 豊	荒竹 ひろみ
足立 克己	早川 教示	水野 享好	竹山 徹	榎本 久美江
住田 貞次	谷野 順子	西山 博子	出口 尚	矢口 由美子
田中 民子	鶴崎 祥子	倉田 節子	有賀 進	丸山 恵津子
藤原 信子	田中 紗子	増田 真次	福島 真	八木 隆太郎
脇田 純子	梅村 亜恵	堀尾 勇夫	近藤 洋	佐々木 伸夫
河内 常男	見木 靖美	武井 陽一	柏木 實	佐藤 真理子
楽 有紀美	橋本 直樹	本間 愛子	水戸 潔	佐藤 千萬子
吉澤 道子	鈴置 幸代	下村 徹嗣	杉本 誠	伊藤 あつ子
野崎 典子	中野 武史	島田 恵子	東 昌子	加藤 由美子
真木 芳子	佐藤 雅美	戸田 真二	黛 八郎	三矢 かな江
土屋 順子	吉戸 瑛子	金元 秀美	吉岡 満智子	土屋 美恵子
村上 貴久・裕子				
吉谷 尚之(複数回)		榎原 喜代子(複数回)		
京都みぎわキリスト教会		教団)岡崎教会こども会		



紙風船夢づくり

酒井 淳子	伊藤 和子	矢澤 綾子	吉戸 瑛子	小薄 満寿美
小嶋 俊則	間瀬 滉子	岡本 真衣	津田 公子	川口 いづみ
都築 典子	堀池 育志	宮原 祐子	後藤 宣彦	河合 みち子
牧野 雅樹	佐藤 雅美	佐野 環	森 豊	石崎 亮史朗
荒竹 ひろみ				



物品寄付

島 しづ子	宮川 優子	(有)山健商店
-------	-------	---------



ご協力ありがとうございました。

事務局からのお知らせ

寄付金のお願い

平素より愛実の会の活動のために多くの方の温かいご支援、ご協力に心より感謝申し上げます。現在寄付金目標額200万円に対して、約70万円と厳しい状況です。コロナ禍においても基本理念に基づき、メンバーが安心して生活ができるように、私たちにできることを考えながら取り組んでいます。何卒ご協力をお願い致します。

当法人への寄付金は税法上の優遇措置として寄付金控除が受けられます。寄付金受領証明書は確定申告の折まで大切に保管してください。

同封致しました料金受取人負担の払込取扱票ですが、2022年1月17日より寄付金を現金でお支払いをしていただいた場合に、加算料金(サービス料金)として110円を払込の方にご負担していただくことになります。ゆうちょカードまたは通帳からお支払いの場合は今まで通り0円となります。(詳細はゆうちょ銀行にてご確認ください。) どうかご理解の程よろしくお願い致します。

愛実の会の詳しい活動については、ホームページにて掲載しております。
是非、ご覧ください。

皆様のご多幸をお祈り申し上げます。



【所在地・連絡先】

特定非営利活動（NPO）法人 愛実の会

□ 居宅介護事業所あみ（ホームヘルプ）
〒455-0021 名古屋市港区木場町9番地の24
TEL：052-693-7645 FAX：052-746-2639
□ 障がい者デイセンター愛実（生活介護）
〒455-0021 名古屋市港区木場町9番地の24
TEL：052-693-5897 FAX：052-691-7889

E-mail info@aminokai.com
ホーメルジ http://www.aminokai.com

または [愛実の会](#) [検索](#)

【「認定NPO愛実の会」寄付金のお願い】

郵便振替 □座番号 00850-6-187490
□座名称 特定非営利活動法人 愛実の会 1□1,000円 何口でも結構です

- ◆ 寄付金（賛助会費・NPO愛実の会の活動に関する費用）
- ◆ 紙風船夢づくり（人形劇制作費、公演活動に関する費用）